

令和元年横田基地研修所感

個人賛助会員
浅見 純也 氏

横田基地の有る福生で生まれ今も暮らしている自分にとって、Yokota は生活の一部です。

子供の頃は自宅周辺にも米軍ハウスが建ち並び、小学生の頃の授業中には防音二重窓越しにF-4ファントムが爆音を轟かせていました。放課後はランドセルを放り出し、近所のアメリカの子供たちと隠れん坊やローラースケートをして遊んでいました。

社会人になり勤めたのは、横田基地第 2 ゲート前に有った米軍相手の免税店でした。ここでは沢山の米空軍関係の方や米大使館員、星条旗新聞社の方々との交流があり、今でも公私ともにお付き合いさせて頂いています。

その後、事業転換で会社は老人介護施設となり、今は自分も介護の現場で日々奮闘しています。場所柄、勤務先施設と米空軍との交流も多く、施設の夏の納涼祭には横田基地司令が挨拶に来て下さり、同行の米軍妻女の皆さんの“七夕ダンサーズ”の盆踊りは大盛り上がりです。また、9月の横田基地日米友好祭では米空軍より施設利用者の皆さんが招待され、ハンディキャップパスが交付され施設の福祉車両で間近まで入れて頂け、楽しませて頂いています。優しい笑顔の若い米兵達と大戦経験者である施設利用者の皆さんとの交流は和みます。12月のクリスマス前にはゴスペル聖歌隊の皆さんの訪問もあり、美しく迫力の有る歌声に皆さん大感動しています。

そんな中、先般の横田基地研修に参加させて頂き、普段見慣れている C-130J スーパーハーキュリーズや CV-22 オスプレイを間近に見ることが出来、また普段は立入ることが出来ない第 5 空軍司令部及び航空総隊司令部を見学させて頂けた事、また米軍及び空自の現場の方々から貴重な話も沢山伺えた事は、自分にとって大変有意義なひと時でした。

初めての研修参加で少し緊張気味でしたが、JAAGA 理事の皆様には大変お世話になり御礼申し上げます。